

第34回のべおか「第九」演奏会

12月ひと節ひと節に思い込め

延岡市の年末の風物詩となった第34回のべおか「第九」演奏会は14日、同市東浜砂町の延岡総合文化センター大ホールで開かれ、市民でつくる合唱団のべおか『第九』を歌つ会が、九州交響楽団の交響曲第9番(合唱付き)(ベートーベン作曲)の演奏に合わせ、声高らかに「歓喜の歌」を響かせた。初出演となった指揮者の梅田俊明さん(仙台フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者)は「民衆のエネルギーを感じさせる、すてきな合唱でした」とたたえた。(6面に関連記事)



声高らかに「歓喜の歌」を響かせた第34回のべおか「第九」演奏会(14日、延岡総合文化センター大ホール)

今年は初の試みとして、観客により理解を深めてもらおうと演奏前、声優の池田知聰さん(宮崎市出身)が「歓喜の歌」のドイツ語歌詞を日本語で朗読した。

今年は初の試みとして、観客により理解を深めてもらおうと演奏前、声優の池田知聰さん(宮崎市出身)が「歓喜の歌」のドイツ語歌詞を日本語で朗読した。

京オリンピックのドイツ柔道選手団のホストタウンに延岡市が登録され、いることからその機運を高めるためソリストの一人にドイツ人のユリア・ダンツィング(ブラノ)が起用された。ソリストは他に、黒崎朋子さん(メゾソプラノ)、群馬県出身東京芸術大学卒、柳田啓志さん(テノール)、延岡市出身延岡星雲高等学校教諭、今村雅彦さん(バリトン)、延岡市出身延岡市出身、東京芸術大学卒が務めた。

演奏後、観客からは温かな拍手と「フラボー」の

削涼華さんは鳥肌がぞわーっと立つのを感じた」と、初めての「第九」に感動した様子。ソリストの柳田さんについて、「いつも学校で見ている姿と違うのでびっくりした。身近な先生が少し遠くに感じた」と話した。

今年の歌う会には初心者を含む小学2年生

89歳の団員97人が参加。

梅田さんから直接指導を受けながら本番に臨んだ。今村愛子会長は「この1年間いろいろなことがありました。が、「第九」の女性2人は「聞くものいいけど、歌う方がやつぱり楽しそう。あと10歳若ければ」。延岡星雲高校2年の山本悠羽さん(弓)が起用された。削涼華さんは鳥肌がぞわーっと立つのを感じた」と、初めての「第九」に感動した様子。ソリストの柳田さんについて、「いつも学校で見ている姿と違うのでびっくりした。身近な先生が少し遠くに感じた」と話した。

「34回を迎えたことに感謝したい」と話した。

2019.12.16